

# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

越前市北日野小学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

北日野地区自治振興会会長		
北日野小学校児童を見守る会会長		
北日野公民館館長		
北日野地区体育協会会長		
北日野地区子ども会連絡協議会会長		
認定こども園北日野園長		
地域コーディネーター（前北日野地区大屋町区長）		
PTA会長	PTA副会長	
校長	教頭	教務

### (2) 協議会の内容

開催回数	3回
開催日程	6月18日 11月14日 2月13日
協議内容	趣旨・活動方針の説明 本校の教育方針・行事 学校教育の状況 次年度の計画 学校評価の分析と考察

### (3) 協議会における成果と課題

本校の教育方針や学校教育の状況をよく理解していただき、手厚い支援や協力を得ることができた。特に、協議会全体で挨拶に力を入れ、こどもたちの挨拶が大変よくなってきている。

本年度は、下水道工事や駐車場整備の工事が多く、度重なる通学路の変更や、常に工事の中を登下校してくる1年間であったが、会議の中で情報を共有することで、大きな事故やケガがなく、無事1年を終えることができた。

どうしたらふるさとに戻ってくる若者を育てることができるのかを考え、「北日野はいいな、ふるさとはいいな。」という体験を少しでも積んでもらえるよう、家庭と地域と学校が一つになって今後とも地域全体の教育力を向上させていく。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

北日野地区の象徴である霊峰「日野山」の歴史や信仰について、また、御誕生寺についての活動を行うことで、ふるさとの自然や地域の偉人に対する誇りをもち、大切にしていこうとする児童を育てる。

近くの水田で地域の方とともに米作りをしたり、地域の方による大豆を使った食品をともに作ったりすることで、北日野地区の素晴らしいものづくりに触れる。

児童が探求活動でつかんだ北日野の魅力を、CMづくりやのぼり作りに活かし、この地区を愛し、さらに新たな活力を生み出す児童の育成を図る。

### (2) 活動の実際

#### ① 北日野の良さを宣伝するCMづくり（6年生）

様々な北日野地区の自然や歴史、未来について考えたこと等でCMを作ろうということで、活動が始まった。

霊峰「日野山」の自然や歴史について調べ、6月の遠足



で、実際に日野登山を行った。また、北日野地区にある、曹洞宗の発展の基礎を築いた郷土の偉人である瑩山紹瑾の生誕の地（帆山町）と瑩山紹瑾の御誕生寺（庄田町）についての探究活動を行った。御誕生寺では、座禅を体験し、集中力を高める呼吸法等も体得した。さらに、北陸新幹線の南越駅周辺の展望を考え、北日野地区の未来を考えた。

CMは、丹南ケーブルテレビの「みんなの学校自慢ようこそ！」で放送され、発信することができた。



## ② のぼりを作って北日野のよさを伝えよう（全学年）

総合的な学習の時間や生活科の時間に体験したり、学んだりしたことから、子供達が実感した北日野のよさをアピールするのぼりを作成した。学習発表会や地区文化祭などで、校内や地域の方にアピールすることができた。

まず、クラスまたは学年で、北日野の良さを一つのフレーズにまとめ、6年生がのぼりを作成した。その後、学年でイラスト等を入れ、のぼりを仕上げた。学習発表会の3年生や5年生のパワーポイントの発表でも、そののぼりを活用し、発表に活かしていた。



## （3）地域コーディネーターの活動概要

日野山の自然や歴史、信仰についてのアドバイザー的役割を果たした。

御誕生寺の見学・座禅体験では、御誕生寺との連絡調整を行った。

米作りや味噌造りでは、協力してくれるボランティアの方々と田植えや稲刈りの等の日程調整を行った。児童の活動に参加し、児童の体験学習を支援した。

## （4）特に工夫した事項

地域人材を活用したり、保護者の参加を募ったりして、より広い視点や高い専門性で体験活動を行えるようにした。また、その活動の中で、ふるさとのよさや魅力を伝えていける場を意図的に設定した。また、ホームページで教育活動の様子を随時発信し、情報の共有化を図った。

## （5）成果と課題

児童のなぜだろう、どうしてかなという疑問から、活動計画を立て、体験学習や学びを深めていく中で、新しい発見や驚きにつながるふるさと学習ができた。1年生から学年の発達段階に応じて、北日野の良さをとらえ、ふるさとを愛する心を伝える活動ができた。本年度の学習発表会では、ふるさとのよさを伝える発表内容になっている学年が多く見られた。今住んでいる地域の良さを再認識し、感謝の念や、人の温かさに気づく取り組みとなった。限られた時間の中で、無理なくふるさと教育を進めていくための方策や、連携のあり方を見直していくことが今後の課題である。